

静岡恵明学園創設者



杉村伸平先生



杉村茂登子先生

恵明新聞

No.114

令和4年12月1日発行

静岡恵明学園七十周年に臨む

お陰様で静岡恵明学園は、杉村伸平・茂登子夫妻が、東京から一人の子ども達と静岡県三島市山中新田の宋閑寺に来て、生活を始めて今年の十二月十二日で七十年を迎えます。これまでの皆様の厚い心のもったご支援に対して深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

当学園の創設者杉村伸平先生は平成七年九月に茂登子先生は平成二十四年七月にご逝去されました。その後私たち役員はご夫妻の「子どもとともに」という学園創設の理念を受け継ぎ児童養護施設・乳児院・保育園・こども園・児童センター・児童家庭支援センターと児童に係わる事業を国、県、市町の温かいご支援ご指導ご協力により営ませていただいています。現代はウクライナ紛争に伴う国際世界の混乱、新型コロナウイルス感染症による世界の混乱が起こって、人間関係の希薄化、存在の孤立が生じています。その中で大人が苦悩し子ども達がそれに振り回されています。社会と家庭の溝ばかりでなく、家族の中での人間関係にも溝が生じています。この溝はある意味、当学園が創設された時代と似ている感じがいたします。静岡恵明学園は創立七十年を契機に全ての子どもたちの心の中にある愛の種を育てたいと思います。愛の花を咲かせる種。その種を大人の叡智と情熱と勇気を持って子ども達の心の中で育てるために役員一同、一所懸命努力してまいる所存です。この世に生まれてきてくれた全てのお子さんが自己肯定感を持ち「生れてきてよかった」と感じられる社会を皆様とともに創造していきたいと思えます。これまでと変わらぬご支援をこれからもどうぞよろしくお願い致します。

社会福祉法人 静岡恵明学園

理事長 杉村 伸一



箱根の山の家に通って半年過ぎました。三十年前、私は沼津の江の浦の山の小さな保育園に勤めていました。共通していることは、どちらも山にあり夕焼けがとても素晴らしいことです。残念ながら江の浦の保育園は現在ありません。今は箱根からの帰路の途中に見える夜景が一日の終わりの楽しみになっています。恵明の子どもたちも大きくなった時に、この風景が素敵だったこと、大自然の中でのびのびと逞しく育ったことをきくと感慨深く思うようになると思います。

自身も子育てを終え、自分の



静岡恵明学園 児童部

子育てを振り返ると、もったいなくしてやれば良かったかなと反省点も多々あり、子どもが大きくなる時間はあっという間だったように思います。縁あっていちょうの家の子どもたちと出会い、また子育てができる嬉しさ半分、責任があると感じています。この半年は色々な問題にもぶつかり心が折れることもありましたが、子どもたちの優しさや笑顔に何度か助けられました。

今、ここで子どもたちの将来の為に何ができるのか、どのように応え対応するか、常に問い続ける姿勢を持ち続け共に成長したいと思っています。

増田 倫子(保育士)



永年勤続表彰

杉村枝里 三輪千恵子 深瀬浩之

さくらの家 だより

可愛いさくらの男の子たちへ

夜の八時過ぎ。お皿を洗いながら子どもたちが自由にくつろいでいるリビングを何気なく眺め、ふと考える。「子どもたちから私はどう見えているのだろう」と。皆さんこんばんは。さくらの家の紅二点と言えはこの私。子育て経験もない中、いきなり思春期真

地域小規模 児童養護施設

「只中の男の子たちとの生活を始め、早いもので二年目の秋を迎えています。今年の春には四人の子どもたちをそれぞれ別の場所に無事に送り出し、また新たなメンバーを迎えてのスタートとなりました。」飯「風呂」「うるさい」まるで熟年夫婦のような言葉が飛び交う日常。私の髪型や服装の変化には全く気づか

はなみずきの家 だより

地域小規模 児童養護施設

少し肌寒さを感じる夕暮れ、はなみずきの家からは、きょうも元気な子どもたちの声が聞こえてきます。半年前は家の中に居ながらも、お姉さんの姿が見えなくなると不安で泣いていた幼児ですが、今では自分でできることが増え、玩具を介して子どもたち同士で遊ぶ姿も見られます。電車を見に行くことがお気に入りです。「今日はお利口だったから電車見に行ける?」と必死に訴えてきま

す。毎日でも電車を見に連れて行ってあげたいとは思っても、の、電車を見に行くには交通量の多い道を通り、川で大好きな水遊びをすることを想定して行かなければなりません。私の顔が、「手を離しちゃダメ!」と、怖い顔になっ

ていくこともしばしばです。小学生は、近所の友だちと遊ぶ姿が見られたり、体操教室やお寺さんの手伝いなど様々なことを経験しています。地域の方たちのおかげで

特別な体験をさせてもらっているなと思います。それでも幼児ばかりずいぶん自分たちだつてこうしてほしいという思いがあるでしょう。「耳掃除して!」「マッサージュして!」と、要求が止まらないこともあり。今は不満があるかもしれませんが、いつかはなみずきで暮らしてよかったですように。

大津 知子(保育士)



ないのに、顔のシミや体型の変化する、気づいてほしくない所にはすぐに気づくという不思議。男の子とはこういうものなのかと諦めつつも、突然意味もなくちよつかいを出してくる姿や、ふいふい笑顔に「可愛いとこあるじゃん」と気持ち振り回される忙しい毎日です。それでも、出会うかわずか二年や半年の関係の中で、私という人間を、どんな形であれ、受け入れてくれて

いること、本当にありがたいなと思つています。小さい子のようなストレートな言葉の表現や行動がない中で、私自身

の不安な気持ちから、いつの間にか子どもたちに多くのことを求めてしまつているような気がします。口うるさいおばさん、家政婦、同居人、どう見えていても構わないけれど、いつか「お姉さん、いつもありがとう」なんて言葉を自然とかけてくれる日が来るのを楽しみにしています。お兄さん、同じ男性として、早めにご指導の程よろしくお願ひしますね。

蛸原 朱美(保育士)



児童家庭支援センター スマイルだよ

自己紹介

今年度より、心理士として児童家庭支援センタースマイルに在職しています。はじめは児童支援…いや、児童、家庭、支援…と名称もおぼつかない私でしたが、今ではハッキリ言えます。この場をお借りして、児童家庭支援センター、通称児家センのことを紹介させていただきます。

児家センは、子どもと家庭に関する様々な相談に応じて支援したい、という国の方針で創設された機関です。静岡県内では、四つの児家センが県からの委託によって運営されていて、東部地区にあるのがスマイルです。

スマイルには、①子育て支援、②里親支援、③社会的養護自立支援の三つの支援部門があります。私は子育て支援をベテランの先輩方と担当しています。子育て支援では、電話や来所にて、お子様やご家族に関するご相談を受けたり、家庭訪問による支援業務をおこなっています。また、毎週水曜日はスマイル子育て広場が開かれ、親子でふれあい遊び

などを楽しんでもらっています。地域の子育て支援センターに出かけ、出張相談もおこなっています。児家セン内の各部門とも連携し、いろんな形の家庭、家族に寄り添っています。

私自身は、これまでに学校や病院で、学校不適応や発達に関わる仕事をしてきました。

なんだか心配と感じたとき、どこに相談したら良いんだらうと悩んだとき。スマイルに足を運んでみませんか？私たちが持つ情報をお伝えしながら、解決策と一緒に考えられればと思います。美味しいお茶をお供に。

古郡 千尋(公認心理師)

奨学金を受けて

施設や里親の元で暮らしている子どもたちが、高校卒業後の進学を考える時、お金のことが気になる。お金の心配をしないで進学できるよう奨学金制度があります。

奨学金は、国で行っているもの、財団などの民間で行っているもの、返済不要な給付型のもの、返済が必要な貸与型のもの、金額

も実施主体によつてまちまちです。社会的養護の子どもたちには、将来返済の負担がないようにできるだけ給付型の奨学金を勧めます。

ただ、助成人数に制限があるため、受けられそうな奨学金はできるだけ沢山申請します。申請したからと言って必ず助成が受けられるわけではないからです。

申請には、必ず将来の夢やそれに向けてがんばっていること、また高校時代に頑張つて取り組んだことなど、自己アピールが必要となります。作文を書くことで、もう一度自分を見つめ直して将来のことを考えるいい機会となります。作文は上手に書くことより、いかに今の自分を受け入れて、将来の自分を描けるかが大事です。

子どもたちには、夢に向けて勉強に励むことができ、将来社会で自立できるように、沢山の支援者たちが応援してくれていることを知ってほしいと思います。

自分一人で生きているのではなく、いつでも相談



のつくれる大人がいるということ。

今年も、進学を目指して受験勉強をして、奨学金の申請をして、頑張っている子どもたちを私たちは応援しています。

岩本 千尋
(自立支援相談員)

里親支援 担当職員より

里親として活動するためには、必ず研修を受講しなければなりません(有資格者は除く)。共働き家庭が多い昨今、事前面接や研修等に、平日を含んだ日程を調整する労力は大変なものです。配偶者や同居家族の協力、里親になることへの理解に苦労するケースも少なくありません。晴れて里親登録が認められた後もなかなかご縁に恵まれず、すぐさまに恵まれません。また里子の養育の困難さに直面するケースや体力、精神的なつらさ、自立に向けて経済的な問題に悩まされる等、まさに個々に里親のみならず、子どもを抱える心配、課題は尽きません。里親のみならず、沢山の支援者たちが、何なのでしようか。

里親に興味を持っている方、里親研修受講者の方、里親の方、これまでみなさんのお話を聞かせて頂き

ました。全ての方共通であることは、子どもたちの健やかな成長と幸せを願う気持ちに他ならないのです。日々はつらく思わず泣いてしまうような出来事の連続であっても、時折見ることが出来るほんの瞬間の輝く笑顔、そしてその笑顔が続いてほしい…。その思い、願いが原動力であるのでしよう。

里親のみならずの熱い思い、里子のみならずの思いに耳を傾け、一つでも多くの笑顔を紡いでいけるよう微力ながら、今後もしも一層業務に取り組みしていきたいと思えます。

谷山 美佳
(心理訪問支援員)



クリスマス中止のお知らせ

毎年十二月に三島市社会福祉会館にて開催しております恵明クリスマスですが、本年も新型コロナウイルスの影響を鑑み中止とさせていただきます。楽しみにされていた皆さまには大変申し訳ありませんが、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

ボランティア File NO.5



菅 美穂さん

菅さんとのつながりは前園長の加藤秀郷先生が作ってくださいました。

加藤先生と同じ言葉短期大学(現常葉大学短期大学部)で講師をされていた菅さんは保育科の講師で、学内等で出会い交流を深めていく中で、学園の子どもたちと音楽を通して関わることを始

めました。児童が菅さんのピアノ教室に通塾したり、学園の夏の臨海学校(伊豆市小下田)期間中の「海のコンサート」や笹原で行う秋の「山のコンサート」などに賛同・協力してくださったり、コンサートに招待してくださるなど子どもたち・職員に本物の音楽を伝えてきてくださった。また、子どもたちに向けた「音楽教室」を行い、合唱練習をしたこともある。地区の文化祭での合唱披露や三島市民合唱祭(三島市民文化会館)に参加させていただいた。また「恵明クリスマス」で披露される小学生劇「いちばん

すばらしいおくりもの」の劇中の歌や「恵明学園歌」の歌唱指導をしてくださった。今年度学園は七十周年を迎え、去る十月八日(土)「静岡恵明学園七十周年記念の会」を開催し、式典開始は学園児童・職員による「恵明学園歌」斉唱で始まりました。この時のピアノ伴奏を菅さんは快く引き受けてくださいました。また、菅さんは現在北海道に生まれ、時々実家の三島に帰つてこられる。この日のために子どもたちの歌唱指導の協力をしてくださいました。

菅さんは「コロナがおさまったら子どもたちといろいろなことをしたい。」と話してくれる。子どもたちへの想いに寄り添ってくださる菅さんに感謝申し上げます。



赤ちゃんセンター



乳児部

記憶に残るもの

自宅の本棚からとても懐かしいバムとケロのちようびの本が出てきました。子どもたちを寝かしつける時によくリクエストされた二冊です。本のストーリーと丁寧な描きこまれた絵も大好きで、レンジの横で人參のヘタを水につけて育てている場面を見つけると、「にんじんさんは、ここからどうやって大きくなるの？」と始まり、寝かしつけるどころではなくなり、私の方が先に眠くなってしまった事など思い出しました。この本には山盛りのドーナツも登場します。バムとケロが完全防備でドーナツを揚げるシーンは、子どもたちも大興奮。その

姿は愛らしく出来上がったドーナツはさぞかし美味しかったことでしょう。

乳児の子どもたちと揚げ物をするのは危険な作業なので出来ません。けれどボールに入った粉のサラサラした手触り、牛乳と卵を入れて粘土のように練つてもらい、好きな型に成形。散らかって汚れて大変だあとと思いますが、バムのような広い心でそれを受け止め、自分で作ったんだと誇らしげな子どもたちの顔を見ることができたらこちらも嬉しいなと想像しています。

乳児のお姉さんと子どもたちの体調など相談し、台所の職員とも話し合い



ながら、台所側からできる事の提案を考えてみたいと思っています。

子どもたちと大人が一緒に何かをする、できた、という体験が子どもたちの記憶に残り、いつか何かの場面でそれが役に立ってくれたらと思っています。

藤澤 美穂(栄養士)



再びこんにちは

一度保育を離れ、復帰してからもうすぐ二年が経とうとしています。毎日子どもたちと過ごしていると二年があつたという間で、離れていた期間の方が一年を長く感じていました。

大きい子組として復帰して私が部屋に入るとすぐに来てくれる子もいれば、すぐく警戒する子もいました。中でもAちゃんはとても警戒心が強く、最初の頃は私のことを避けるように過ごしていました。また、自分の要求を泣くことで伝えていたAちゃんだったので、復帰した時の頃はなんで泣いているのか分からず私自身も戸惑うことだらけでした。

日々の食事に関しても私がつくテーブルには来てくれなかったり、食後の手洗いすらも泣いて拒否す

ることもありました。また、夜勤でも部屋に大人が私だけになるので、ずっと警戒し、我慢している様子が見られ、時々泣く事もありました。おしめ交換の際も私が交換することを泣いて嫌がっていました。

それほど警戒していたAちゃんですが、今では私が出勤すると足に抱きついて来てくれるようになり、食事の介助や夜勤も笑顔で過ごしてくれるようになりました。そして私自身戸惑っていたAちゃんも要求も分かるようになってきました。

保育園から離れてみて、改めて子どもが好きでこの仕事も好きなんだと感じましたし、実感もしています。これからも子どもたちとの関わりの中で日々成長していけるよう精進していきたいと思っています。

平山 佳朱美(保育士)

何気ない日々のコマ

秋も深まり、日に日に風が冷たくなってきました。一年の終わりが近づいていると思うと、時間の速さに驚きが隠せません。

子どもたちを迎えた朝のこと。その日は、子どもたちもぐっすり眠っていて小さい子組さんは、ゆつ



りのお目覚めでした。お隣の大きい子組さんのお部屋からは、朝から元気いっぱい声が聞こえてきます。二つのお部屋の真ん中のカーテンを開けると、大きい子組さんのお兄さんとお姉さんの顔がひょこり見え、「おはようございまーす」とご挨拶をしてくれます。朝食を済ませ、小さい子組さんは大きい子組のお部屋に遊びに行きます。真ん中の扉からお部屋をのぞくと、大きい子組の番やんちゃんRくんが小さい子組のRくんの横に並んで座り、まるで保育者のように絵本の読み聞かせをしていました。その周りでは、小さい子組のSくんが泣きそつになているのを大きい子組のRちゃんが見つけ、「Sくんが泣

いてる」とと保育者に教えてくれています。大きい子組の女の子同士で遊んだり、大きな声でお歌を歌っていたり、それぞれの子どもたちの過ごし方をしています。

何気ない日々のコマですが、その空間がとても尊く見えました。目まぐるしく過ぎていく日々の中で見えた子どもたちの姿から成長を感じました。子どもたちが安心して生活していけるよう、そして成長を見逃さないようにしていきたいです。

池田 桃子(保育士)





子どもたちの笑顔

恵明保育園を第二子出産のため退職、同時に長男は卒園。あれからどれくらい月日が流れたでしょう。考えてみると十七年程の月日が流れていました。

昨年センター長先生や園長先生に久しぶりにお会いし運命なのか縁なのか再び保育園でお仕事させていただく事になりました。久しぶりの保育園はとても懐かしく新鮮で何とも言えない初心に帰るような気持ちでした。しかし、それ以上に大きな不安。保育園を退職して以来事務職しか携わってきいていないこと、年も重ねてしまつて本当に大丈夫だろうか。不安に押しつぶされそうでした。

そんな中、子どもたちの毎日見せてくれる笑顔が私の不安を吹き飛ばしていつくくれました。抱っこをさせてもらえる喜び。話しかけるとまだ小さくてお喋りできない子どもでも



赤ちゃん組の日々

喃語や体を使って表現し答えてくれて、時には怒って泣いて笑って楽しんで。本当に色々な表情を見せてくれ可愛いです。そして子ども一人一人個性がありちゃんとアピールできる姿。こんなに小さいのに全力で毎日過ごしていて本当にすごいなと日々感心します。そんな子どもたちの成長を近くで見守れる事をとても幸せに感じます。

歳を重ねてからの再スタート。まだまだ勉強しなければならぬ事は沢山ありますが、縁があって出会えた新たな恵明保育園の仲間たちと共に笑顔で楽しく一日一日を大切に穏やかに過ごしていけたらいいなと思います。

石井 慎子(保育士)



今、赤ちゃん組は、七名のお子さんと毎日楽しく過ごしています。子ども達は一人一人、二日の過ごし方が違います。朝の様子や、お家での様子を連絡帳等で確認しながら、職員同士は声をかけあっています。お姉さん達は、子ども達が大好きです。朝は必ず「おはよう」「今日も元気だね」と優しく声を

かけます。子ども達もニコッと笑顔を見せて、お姉さん達に手を伸ばしてくれます。ギュッと抱きしめたり、抱っこすると、満面の笑顔。四月

がませ、「うつつっ」と泣きそうになったことがありました。そんな時もそっと近くへ行き、ギュッと抱きしめると、すぐに安心した表情をみせてくれたことに、嬉しさを感じました。歩けるようになった子たちは、お部屋の中でも追いかけて大好きです。そんな様子を見てみると「四月はハイハイしていたな」とか、「先月までは伝い歩きだったな」と子ども達の成長を日々感じ、嬉しく思います。これからも、子ども達にとつて安心できる場所を作り、そして衛生管理にも気を配りながら子ども達の成長を見守っていきたいと思います。

前島 公乃(保育士)



保育士になって...

数年前、二歳半の娘を保育園に預け、主婦から社会復帰をしてフルタイムで働き始めた私は、慌ただしい毎日をお過ごししていました。保育園グッズや提出物の忘れ物が多くなり、

家庭と仕事の両立は難しい...と自信を無くしていた時、ある保育士さんから「お母さんが頑張っている事は、みんながわかっているから大丈夫よ。」と優しく声を掛けて頂き、その言葉に励まされ「頑張ろう!」と思い直す事ができました。

その後、私は娘がお世話になったこの保育園に転職し、今年度は大きい子組の子どもたちと楽しい日々を過ごしています。毎日の生活の中で、たくさんのお言葉を覚え、何でも自分でやりたいと挑戦し、興味の世界が広がり、「できたね」「や」「すごいね」が増えていく子どもたちに驚かされています。また、意に沿わない時には、やんちゃな姿を見せる

子どもたちに、困ったなあと思いつつも、素の姿を出しているのは私たちを信頼してくれているからこそ、嬉しさも感じていきます。子どもがやんちゃをする時には理由があり、大人を困らせている時は子どもの方がもっと困っている、と思うので、何に困っているのかな?どうして欲しいのかな?と子どもの目線で見つけ、寄り添うように心掛けています。

あの時の保育士さんが私に寄り添って下さったおかげで、様々な嬉しい気持ちを感ずる事ができました。子どもたちが卒園するまでの残り少ない日々の中で、たくさん「嬉しい!」を一緒に感じて過ごしていきたいです。

井上 結穂(保育士)





もりの 宮さんの杜通信

2022. 10

朝晩が涼しく、日中も爽やかな秋の風を感じられるようになりました。宮さんの杜では親子で楽しく読んでいただけるような絵本をたくさんご用意しています。読み聞かせはお子さんとのコミュニケーションの場にもなりますので、ぜひご利用ください。

今月も感染症対策をしながら、季節に合わせた製作やリズム遊びを行います。どうぞお気軽にご参加ください！



＊ ちょこっとコラム ～ 目の愛護デー ～

10月10日は目の愛護デーです。生まれたときは0.01くらいの視力も、生後6カ月頃から急速に成長し、5歳で1.0程度になるといわれています。乳幼児期は視力の成長期なので、目の健康に気を配ることが大切です。

長時間テレビやゲーム画面を見続けることは避け、目によい生活を心がけましょう。



●三島市大宮町2丁目2-11 tel.055-991-0010



じゃじゃまる通信



2022.10

朝夕の風が涼しくなり、過ごしやすい季節になりました。気候も良くなり、食べ物もおいしくなり、体も動かしやすくなります。お散歩に出かけたり、周りの景色を見ながら秋を感じてみてはいかがでしょうか。今月は、秋の製作遊びや、ハロウィンの製作を予定しています。ぜひ、遊びに来てください！

ちょこっとコラム



～秋の食料～

秋は、野菜や果物が豊富な季節です。さつまいも・梨・りんご・ぶどう・栗。中でもさつまいもは、とても身近な野菜のひとつでもあります。焼き芋・スイートポテトなど 色々なアレンジを楽しむこともできます。この機会に、お子様とお菓子作りに挑戦してみよう！！



●恵明キッズフヨウビレッジ内
三島市芙蓉台2-3-17 tel.055-987-7922



フリッパー通信

令和4年9月



残暑が厳しく、まだまだ暑さが続いています。熱中症対策をしっかりとし、十分な睡眠や食事、生活のリズムを整えていきましょう。

今月もフリッパーでは、ソーシャルディスタンスをとりながら、親子で楽しい時間を過ごしていきたいと思います。

＊ちょこっとコラム … 9月1日は「防災の日」です。



9月1日は防災の日。ご家庭の防災グッズは揃っていますか？用意がない方はこの機会に揃えておくと良いでしょう。また揃っていても、食糧、飲料水の期限や懐中電灯の電池残量のチェックなど、いざという時に無かったり使えないのではせっかくの準備も台無しです。ご家族で確認しあいながら、防災意識を高めていけるといいですね！

●恵明キッズサクラビレッジ内
三島市文教町2-28-6 tel.055-943-6878

子育て支援センター

それぞれの子育て支援センターの
“子育て支援センターだより”を紹介します。
地域の子育て親子さんたちが多数訪れ、
楽しく過ごしています。
今年度も楽しく利用できるよう、
イベント等用意し、スタッフ一同
お待ちしております。

利用日：月曜日～金曜日 10:00～16:00
子育て相談、園庭開放も随時



ほこ通信

2022.9

セミの姿が少なくなってきたのと同時に、赤とんぼの姿が見られるようになってきました。秋の気配を感じるこの季節ですが、まだまだ暑い日があったりするので体調管理をしっかりとし、快適に過ごせるようにしていきたいですね。今月の『ほこ』も、みんなで楽しく遊びましょう！



☆ちょこっとコラム☆



～敬老の日～

核家族が進み、家庭でも地域でもお年寄りとかかわる機会がぐんと少なくなりました。でも、人生の大先輩とのふれあいは、子どもたちにとっても、大切な経験。まずは大好きなおじいちゃん、おばあちゃんに、日頃の感謝の気持ちをこめて、ありがとうと伝えたいですね。

●恵明キッズコスモスビレッジ内
三島市谷田1629-38 tel.055-973-7778

ローズ通信

2022. 10



すっかり空は秋らしくなり、園庭にはトンボが飛び交い、子どもたちは元気に追いかけています。今月の支援センターでは、秋の葉の製作を用意してお待ちしています。



☆ ちょこっとコラム ☆ ～ 読書の秋 ～

10月27日～11月9日まで、秋の読書週間です。秋のおすすめの絵本は、「おつきさま こんばんは」 作：林明子 「まじょおまつりにいこう」 作・絵：せなけいこ 「おちばきょうそう」 作・絵：白土あつこ どれも秋を感じる絵本です。ぜひ親子で楽しいお話の時間を作って下さい。



●恵明キッズローズビレッジ内
駿東郡清水町堂庭89-16 tel.055-943-5519

恵明キッズ フヨウ ビレッジ



楽しい作品展!

日中のぼかぼかとしたお日様がより暖かく感じられる程の、朝晩の冷え込みに晩秋の訪れを感じます。

すみれ組の担任になり、半年以上が経ちました。私自身、初めての以上児クラスで、生活や活動に不安もありましたが、すみれ組の子どもたちと一緒に、様々な新しいことに取り組む中で、素直で元気いっぱい、笑顔に励まされ、楽しく活動ができ、日々を過ごしています。

進級したばかりの頃は、着替えやお支度も時間がかかったり、ふよう組のお友だちに沢山お手伝いしてもらっていました。が、今では「もう終わったよ!次は〇〇だね!」と次の活動を自分で考えて取り組む姿も増え、成長を感じています。また、ランチではお箸のみになり、持ち方を確認しながら一生懸命に口まで運ぶ様子が微笑ましく、

「きれいに食べられた!」と嬉しそうにしています。

秋は製作活動が増え、作品展も開かれます。今年はお笑顔をテーマに、各クラスで笑顔をなれること、好きなことなどを形にしていきたいと思います。すみれ組は、みんなの好きなポポポポのミックスジュースの絵本を題材にして、好きな動物がジュースを作るシーンを再現しました。「何



の動物にしようかな?」と選び、紙コップや空き箱に折り紙のちぎり貼りをしたり、ジュースに見立てて、障子紙を染めました。手指の使い方も少しずつ器用になり、集中して製作活動に取り組むことができました。また、共同製作では、みんな

で遊べる広場を作り、ゆり組はスポジスタンプで風景を描いたり、ふよう組は花紙を握って敷き詰め大きな虹をつくりました。学年ごとに行うことができ、得意なことや個性も感じられ、面白いです。様々な素材や技法を用いたり、一緒に考えながら、沢山の経験ができるよう工夫していきたいと思っています。

長田 美羽(保育士)

沢山の笑顔

園庭のキンモクセイが花をつけ、フワッと甘い香りが秋の始まりを告げています。小さなオレンジの花からは想像できない程の強く魅惑的な香りと散った後の地面に広がる黄色の絨毯も素敵なキンモクセイ。子どもたちも「このお花、良い匂いがする!」と可愛いお花集めたよ!と言ったり、お砂のケーキの飾り付けにしたり、毎日元氣



いっぱい遊んでいます。

夏の園庭では、三年ぶりになかよしあじさいまつりを開催することができました。子どもたちは何日も前から楽しみにしていて、ワクワクドキドキとした様子でした。当日を無事に迎えることができ、子どもたちも家の方も沢山の笑顔が見られ、久しぶりに賑やかな園庭を見るのができました。また、あじさいまつりでは中学生がボランティアでお手伝いに来てくれました。卒園生も多く参加してくれて、私たち職員も楽しみにしています。今年も沢山の中学生がボランティアに来てくれました。お祭りの店番では小さい子の目線に合わせて優

しく接してくれたり、準備や片付けの時には「先生!持ちます!」と喜んでくれたり、とても頼りになるお兄さんお姉さんになる成長していました。「甘えん坊で泣き虫だった〇〇ちゃん」などと思いき、成長を見ることができ、とても嬉しかったです。コロナ禍になり、こういった経験も少なくなり、さみしいですが、少しずつ元の生活を取り戻し、またみんなの笑顔が増えることを願っています。

子ども園で色々なことを経験し、楽しい思い出が沢山できるよう、一人一人の成長を見守り、子どもたちの明るい未来をサポートしていきたいと思っています。

土屋 由香(保育士)



子育て応援します!



今年度から子育て支援センター・じゃじゃまるの担当になりました。この二・三年は新型コロナウィルスの影響から支援センターの活動も思うようにならなくなりました。また来ます」といいますが、今年から少しずつ利用者が増えてきています。じゃじゃまるには、毎日の園庭開放・週に二回の、おやこであそぼう、月に二度北上文化プラザをお借りして行う、北上出張の三つがあります。利用者のほとんどが未就園児のお友だちとお母さんです。その親子に少しでも子ども園での生活を体験してもらいたいのので、できるだけ「おはようございます」の挨拶から始まり、体操や親子のふれあいあそび、製作等をして「さようなら」の挨拶で終わる、子ど

も園に通っている子どもたちと同じような活動も行うよう意識しています。昨年まで〇・二歳児の担任をしていたのでその経験を活かし、小さいお友だちでもできるような簡単な製作や体操をしています。子ども園と違うところは親子で参加をしていることです。子どもだけが楽しむのではなく、親子が一緒に楽しむことができます。残るものを毎月考えています。家ではなかなかできない製作をする、「うちの子こんなこともできるんですね!」と驚くお母さんも多いです。そんな中で私は「いろいろレッシュになりました。また来ます」という言葉を聞くことができる嬉しくなりました。このご時世で人が集まる場を避けてきてママ友が少ない方も多く、そんな方々から子育ての相談を受けることもあります。子育て支援センターの名前の通り、お母さん達の育児のお手伝いや、心のリフレッシュが少しでもできるように心掛けています。「楽しかった。また来ますね!」の言葉をきく為、これからも子育て支援センターじゃじゃまるを盛り上げていきます。

青野 奈都(保育士)

恵明キッズ コスモス ビレッツジ



?????

今年度コスモス組は野菜の栽培に挑戦しました。

雑草と石だらけだった畑を綺麗にし耕す事から行いました。軍手をはめると、意気込んで草を抜き出す子どもたち。なかなか抜けない頑固な雑草はみんな力で合わせて引つ



張っていました。やっと抜けたところで勢い余り、しりもちをついた時は顔を見合わせ大笑いしていました。

畑にトマトやキュウリなどの苗を植える時は苗に傷つけないようにと慎重にポットから外し畑に植え替える姿が見られました。雨の日以外は自分たちで作ったペットボトルのじょうろで毎日、水やりをしました。

「おいしくなあれ」とお水と一緒に魔法の言葉をかけ収穫できる日を心待ちにしているようにうらやまを感じました。

八月に入る頃には、それぞれの野菜の花が咲き、実が生りだし、子どもたちの興味と関心がより深まってきたようで、「せんせい、やさしいかなってるかな!??みにいこうよ!」とワクワク

クした様子で言っていました。

「いよいよ収穫すると、穫った野菜に鼻を近づけ「にがっ」と匂いを感じたり、キュウリを持つと「ちくちくいたい」と穫れたての新鮮野菜を五感で感じていました。また実際に食べると「いつもよりおいしい」と口々に話していました。時には害虫にやられてしまう事もありましたが、それも野菜を育てる事の大変さを知る気付きになっているようでした。今回野菜の栽培を通して野菜の生育に関心を持ち、世話をする喜びを感じ、ま

た命の大切さを学びました。自分たちで栽培した野菜を収穫して食べる体験は子どもたちにとって貴重な経験になったようです。

岩本 真由実(保育士)

私の宝物

朝、「おはようございませう」とお部屋に入っていくと、にっこり笑って私を迎えてくれる可愛い子どもたち。今日一日の始まりです。

二十年前に、コスモス保育園は開園しました。私の担当は、一番小さいクラス、つくし組さん。当時お



部屋は二階にあり、たくさんベッドが置かれていました。

子どもたちの泣き声、笑い声。先生が絵本を読む声。歌声。今までたくさん時間が流れています。小さい時からもりもりと何でもよく食べる子。体が小さくて、ミルクもなかなか飲めない子。とても懐かしいです。毎日泣いたり笑ったり、決められた時間の中で、たくさん学びがありました。

言葉がまだしゃべれなくても、先生の言った事をしっかりと聞いてお片付けを手伝ってくれたり、泣いているお友だちを見て頭をいいこいこしてくれるやさしいお友だち。

このたくさんの子どものたちとの関わりが、今の私の財産。宝物です。そしてこれからも新し

い出会いが楽しみです。

やさしくね
やさしくね
やさしいことは
つよいのよ

私の好きな言葉をいつも心に持って、今日も大事な子どもたちと向き合っています。楽しく過ごしたいと思えます。

廣瀬 尚子(保育士)

日々の成長

キッチンでランチやおやつを作っていると「おはようございます」と元気に登園する声や「いつてきます」とお外遊びに向かう声、「ただいま」と楽しかった様子が伝わる声が聞こえてきます。その声を聞くと「美味しかった」もたくさん聞けるようにと思ひ、私たちも自然に力が入るような気持ちになります。

今年度も半分が過ぎ、一日一日子どもたちの成長を感じる日が増えました。四月当初は離乳食を食べていた子どもも少しずつ食べられる食材が増えていき、みんなと同じランチやおやつを食べているのを見ると急にお兄さん・お姉さんにならなと実感します。ランチルームをのぞくと最初は離乳食を嫌がり、泣いていた子や食べている途中に寝てしまう子もいましたが、

今では大きな口を開けてモグモグとしっかりと噛んで



食べている様子を見せてくれます。初めは時間までに食べ終われなかったり、苦手な食材を残してしまいう子も多かったですが、「お野菜苦手だけど食べれたよ」など前向きな言葉が増え、「今日のランチは?」「今日のおやつは?」と先生に質問している声を聞く

と興味を持って楽しみにしてくれていることに喜びを感じます。

コロナ禍により子どもたちも黙食するようになり、ランチやおやつ時間も雰囲気前は少し変わったと感じることもありますが、いづれ食べてくれる姿、苦手な食材とも一生懸命向き合っている姿を見られるようにこれからも栄養満点で美味しかったを引き出せるようなランチとおやつを提供していきたいです。

勝又 桃香(栄養士)



恵明コスモス児童センター

子どもたちが安心して集える場所を目指して

恵明コスモスの丘も創立20周年を迎えました。恵明コスモス児童センターも様々な活動を行っていく中で法人内各施設と連携して子どもたちが安心して集えることができ、安全で居心地の良い場所であり続ける努力をしていきたいと思ひます。



児童クラブより

学校休業日のある日のできごと

日誌から

学校行事の代休で朝から小学生がたくさんコスモスの丘に来ていました。朝から気温が上がり、コスモスフィールドで水遊びをしました。水遊びで気持ちも高揚し6年生が誰かれともなく、運動会でやったソーラン節を踊りだしました。低学年も大喜び。みんなで大盛り上がりひと時になりました。



児童センターより

藍染を行いました

コスモス児童センターとしての募集で藍染め体験を行いました。20人ほどの参加があり、オリジナルのTシャツ、ハンカチが出来ました



コスモスキッズサークル (土曜日の居場所事業)より

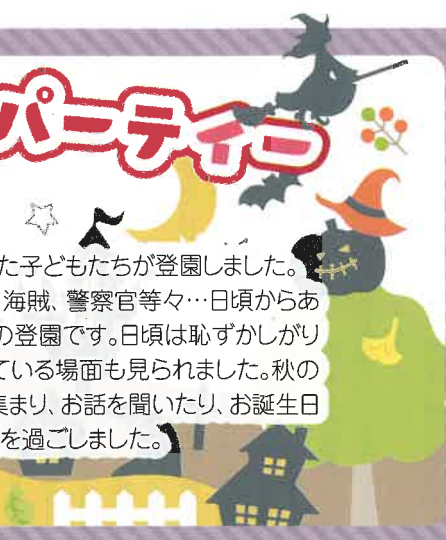
小学生から藍染めの紺色とは違う色で染めてみたいとの声もあり、初めての試みでアクリル絵の具でTシャツを染めてみました。ピンク、水色、赤、虹色、...色も模様もそれぞれの個性の出た素敵なTシャツが出来上がり、みんな大満足でした。

その他、モルック(フィンランドで開発されたゲーム)をやったり、ハロウィンパーティーをやったり、毎月楽しい活動を考え、スタッフも一緒に楽しんでいます。

脇 雅秀(センター長)

コスモスの丘もハロウィンパーティー

今日は10月のお誕生日会、ハロウィンお誕生日会です。おうちから思い思いの衣装をしてきた子どもたちが登園しました。魔女、かぼちゃ、プリンセス、うさぎ、海賊、警察官等々...日頃からあこがれているキャラクターに扮しての登園です。日頃は恥ずかしがりやのお友だちも積極的にお話している場面も見られました。秋の恵みの装飾をしたホールに一堂に集まり、お話を聞いたり、お誕生日のお友達をお祝いしたり楽しい1日を過ごしました。



恵明キッズ サクラ ビレッジ



笑顔あふれる毎日を

進級して半年が経ち、四月の頃に比べて一段とお兄さんお姉さんらしくなった子どもたち。今年、感染症対策を行いながら三年ぶりに子ども園グループで季節ごとに行っていたおまつりを開催することが出来ています。特に年長組は夏の音楽パレードに参加出来たり、子どもたちの笑顔をたくさん見ることが出来ました。九月に予定していた運動会、そして作品展も、今年、笑顔々をテーマに子どもたちと



職員で一生懸命に、楽しく取り組みました。運動会の練習では、コロナ禍という事もあり、クラス全員揃っての練習が出来ない日もありましたが、私が担当するさくら組の子どもたちは「お休みのお友だちの分も頑張るね!」「○○ちゃんの並ぶ順番も覚えておくれね!」と練習を楽しみながらお休みしている子を気づかう様子も見られました。練習中に戸惑っているお友だちがいると声をかけてくれたり、サポートしようとしてくれたりと運動会の練習を通して子どもたちの成長やお友だちを思いやる優しい心を感じる事が出来ました。四月から一生懸命に練習してきた竹馬も「ママが見たいって言うてたもん!」と張り切ったスタートラインに立つ勇ましい姿も見られました。

初めての担任になって
四月の入園・進級時には、不安と緊張感が見られたたんぼ組のお友だちも半年が経ち今では笑顔いっぱい毎日過ごしています。
私は今年初めて担任になり、子どもたち同様不安と緊張でいっぱいのお部屋でもサイバードリ



ートでした。それから毎日毎日子どもたちと一生懸命向きあってきました。少しづつ子どもたち一人ひとりの好きな事や興味のある事がわかってきて四月当初の不安も和らぎまし

ームを使つての英語遊びなどに興味を持つています。単語や歌を覚えたり英語で手遊びをしたり、ワクワクして楽しく参加しています。そのほか、六月に行われたにこにこ運動会、プールあそび、毎月のお誕生日会など、子どもたちと一緒に活動を行いながら子どもたちの成長を日々目の当たりに感じています。



私自身、まだまだうまくいかないことも多く、先輩保育士さんたちに助けて頂くことも沢山ありますが、これからも子どもたちとまっすぐに向き合い、子どもたちの成長を見守り、また援助していきたいよう頑張っていきたいと思えます。
久我 はるみ(保育士)

行事の再開ととも
寒さも少しずつ厳しくなり、「今日は寒いね。」と話をしている子どもたちの姿をよく見かけるようになりました。
こころ、三年は新型コロナウイルスの影響で様々な行事の中止や延期を繰り返してきました。しかし、今年度の四月からは各子ども園のお祭りや遠足などの行事が、色々な制限をしながらあります



が再開されました。お祭りでは、恵明巻きや三島うどん、三島焼きなど子ども園でしか食べられない人気メニューが販売されます。その中でも恵明巻きは、九種類の具が入った太巻きで子どもたちや保護者の方から大人気です。子どもたちが大きな口で太巻きを頬張っている姿はとても微笑ましいのと同時に、頑張つて作つて良かったという達成感を感じます。以上児クラスのお友だちの中には、自分でチケットを持つてお買い物に来るお友だちもいます。百円だったら何枚券を渡したらいいかな?と考えるながらお買い物をしている姿を見て、遊びの中で学びや成長の良い機会だと思えました。
今年度もあと半年となりましたが、子どもたちの笑顔や楽しみが生まれる環境を整え、行事も含めて子どもたちが成長していく姿を保護者の皆様と見守っていけたら良いなと思えます。クリスマスやお正月、お楽しみ会や卒園式などの様々な行事や日々の生活の中で子どもたちの成長を見守るとともに、たくさんのおいしい思い出を作っていきたいと思えます。
帯金 真奈(栄養士)

恵明キッズ ローズ ビレッジ



SDGs、僕達
私達にできること

早いもので進級してから半年が過ぎ今年度も残り半分となりました。四月の進級当初と比べできることが増えたり、クラスの雰囲気それぞれ変わってきたり、様々な変化が見受けられるようになりました。まだまだ甘えん坊だったすみれ組のみんなも今では自分のこと以外



また、ローズビレッジでは

にも泣いている子のことや、困っている子のことを気にするなど、他者の関心が増しお兄さんお姉さんになつてきました。ゆり組はドレミランドや体操教室など、新しいことに挑戦しながら楽しい思い、時には悔しい思いなど、いろいろな感情を経験しています。ばら組は年長さんになり太鼓やのど自慢大会など今までに経験したことの無い行事を終えるたびに、自信に満ち溢れた素敵な表情を見せて

てくれます。どのクラスも、たくさんのお友達との関わりを楽しみ、毎日いっぱい笑って時には喧嘩もしながら日々心も体も成長しているように感じています。また、ローズビレッジでは

山田 麻弥(保育士)

園長先生から毎月のお誕生日会で「SDGs」のお話があります。

SDGsの17項目全てを理解するのは難しいとは思いますが、ローズビレッジのみんな、ひとりひとりができることを考え小さなことから「SDGs」への取り組みをしていこうとしています。まずはSDGsに関する簡単な絵本を読み、今、動物や海の生き物が直面している問題を



一緒に成長!

赤ちゃんと一緒に泣いている姿をみつけると近くまで来て、「大丈夫?」と優しく声をかけてくれ、そんな姿を見ると心があたたかくなります。また、たんぼ組になり半年が過ぎましたが、トイレットトレーニングも頑張っていて、「今日のパンツはこれ!」と言って保育士に見せてくれたり、トイレに行

き、おしっこがでると大きな声で「でたー!」とうれしそうに教えてくれます。「すごいね。やった!」とほめる中、「ニコニコ笑っている子どもたちです。時には遊びに夢中になってしまい失敗してしまうこともありませんが、それもまた成長過程だと思つて受けとめ、その子の成長を見守りたいと思います。」

私も子どもがいますが、日々違う表情や行動をしているので、毎日が手探りの子育てです。うまくいく日、失敗する日などいろいろです。

これから子どもたちと一緒にたくさん笑ったり泣いたり様々な日々を通して一緒に成長していきたいと思えます。

後藤 綾(保育士)

キッチンの窓から

「きょうのフルーツなあに?」
朝登園し、ランチルームで待っている子がトコトコ歩いてきて、「こう言いました。「黄色いものだよ、何でしょう?」



「バナナ!」
「ブー、パイナップルでした!」
ふーんと残念そう。でもその後「きょうのフルーツはパイナップルだつて!」と皆に伝えに行く姿は、なんとも可愛らしく、この些細なやりとりとランチを楽しむにしてくれているのかなと思うと、嬉しく思います。

気持ちは伝えたりと、黙食すら楽しみに変えているようで、距離がある中でのランチタイムを子どもらしく過ごしているようです。
コロナ禍に慣れたとはいえず、お話ししたり笑い合いながら食事をとることは、おいしいご飯の何よりの調味料だと思えます。早くコロナ禍が収束し、みんなであつた美味しく食事が味わえる日がくるといいなと思いつつ、今日もキッチンの窓からランチルームを眺めています。

坂田 美穂(栄養士)



2022年10月8日(土)

静岡恵明学園70周年記念の会

笹原新田児童部で行いました。

静岡恵明学園70周年 の経過報告

1952年、東京恵明学園から独立して、静岡恵明学園として70年の月日が流れました。

当日は、天候にも恵まれ、皆様のご協力のもと、70周年の記念の会を行うことが出来ました。

山中で10年、谷田でおよそ20年、そして、児童部は30周年の時に谷田から坂地区に帰らせていただきました。

40周年の時には、三島市谷田に乳児院と乳児保育所恵明保育園を合築した「赤ちゃんセンター」を創設させていただき、お披露目の会を赤ちゃんセンターで行わせていただきました。

50周年の時には、保育園と児童センターとを合築し、恵明コスモスの丘として創設させていただきました。錦田中学校の体育館をお借りして式典を行い、コスモスの丘でお祝い会を行わせていただきました。

また、60周年の時には、その記念事業として、三島市の公立保育園の民間移管で恵明キッズサクラビレッジ創設、および駿東郡清水町堂庭に新規の保育園創設、恵明キッズローズビレッジを開園させていただきました。お祝い会を三島プラザホテルで行わせていただきました。

そして、2022年70周年ということで、かねてより国道のバイパス工事のこともあり、児童部の大規模修繕、園内整備、地域小規模児童養護施設の開設等について重点的に行うことができ、70周年記念の会当日を児童部で迎えることができました。新しい笹原の児童部は、プライベートスペースと今後社会貢献ができるパブリックスペースとを設け、計画的に活用していきたいと考えています。

30周年の時に笹原新田に移転してから40年の月日が流れ、山中時代を含め、坂地区の皆様には本当にお世話になりました。これからまた新たな出発をさせていただくべく、静岡恵明学園全体で70周年記念実行委員会として準備をし、児童部を会場に行わせていただきました。当日会場にはそれぞれの園の職員が協力して参加をし、ご出席いただいた皆様のご協力のもと、大変和やかな会となりました。ありがとうございました。

